

小学校英語活動の救世主 「カードdeえいご」

和歌山大学教育学部附属小学校教諭 辻 伸幸

「英語活動はこれからどうなるの？」

小学校の英語活動は、新学習指導要領になろうとも、方向性は変わりません。中学校のように言語スキル（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）の習得を目指すものではないのです。体験的なコミュニケーション活動を展開する中で、コミュニケーション能力の素地を養うことが目標です。そのためには、言語や文化について理解することや積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませることが必要になってきます。体験的なコミュニケーション活動は、様々な場面を考えてみるとわかりやすいでしょう。具体的には、ショッピング・レストラン・案内・飛行機の中・自己紹介・学校紹介・地域紹介などのような場面が考えられます。このような場面で、自分の伝えたいことや尋ねたいことを聞いたり言ったりする活動を、ジェスチャーなどの非言語手段も使いながら、英語という外国語で実際に行う体験的な学習をしていきます。

「多忙化する小学校教員」

小学校に勤める者なら誰もが感じているのが「多忙化」ではないでしょうか。新学習指導要領により現場はさらに忙しくなることは確実です。どの学校も高学年は、他学年に比べて忙しい状況です。その上、新学習指導要

領では高学年で英語が外国語活動として必修となることが決定しました。今まで必修でなかったものを週1時間、学級担任がしていかなくはなりません。全国の小学校教員の不安も大きくなっています。この不安を軽減してくれるのが優れた教材です。

教材は、児童たちの実態にあったものを自作することが最も良いということは周知の事実です。しかし、多忙な教員にとって、費用はかかっても良い教材であれば使いたくなるのは当然です。

英語活動を指導する多忙な教員を支援できる教材が、新学社の「カードdeえいご」です。英語活動に関わって10年以上になります。が、普段の授業から研究授業まで活用し、その良さを感じてきたからこそお薦めしたいと思います。



▲新学社の「カードdeえいご」(児童用)

「カードdeえいご」が強い味方になる時」

「カードdeえいご」は、コミュニケーション活動で必要とする英単語や表現に慣れ親しむ段階で重宝します。

英語活動は、前述したように言語スキルの習得を目指すのが目標ではありませんが、体験的なコミュニケーション活動を展開する上で、言語スキルのな面を扱うことは避けて通れません。

具体的に考えてみましょう。例えば、高学年の児童たちがレストランの場でコミュニケーション活動をする想定してください。児童たちがレストランの店員や客となって料理の注文を英語で聞いたり言ったりする活動を組み入れる時、食べたいメニューの英単語や注文の表現がある程度覚えなければなりません。

ここでよく行われるものに、英単語や表現をオウム返しのように教師の発音に続けて、何度も言わせる訓練的なものがあります。

しかし、立ち止まって考えてください。低学年や中学年では、このような訓練的な方法でも児童たちは取り組むかもしれませんが、高学年では、単調で訓練的な発音練習を嫌う子がたくさんいます。「させられる」英語活動になってしまい、英語が嫌いになってしまいうことも考えられます。高学年の児童たちの発達段階に合っていないのです。

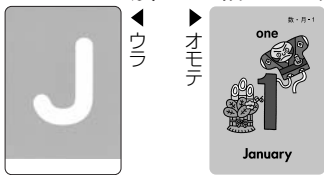
小学校では、遊ぶこと、楽しむこと、考えることを通して、必要とする英単語や表現に慣れ親しみ、コミュニケーション活動で使える状況をつくり出していかなければなりません。「カードdeえいご」は、まさしく遊びながら、楽しみながら、考えながら、英語に慣れ親しむことができる、優れた教材なのです。

日々の授業で使う教材や教具。隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？
このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

「カードdeえいご」の優れている点

英語活動の教材は、10年前に比べて格段に充実してきました。その中で、優れている点が多いほど良い教材と言えます。「カードdeえいご」の長所をいくつか挙げてみましょう。

- ・ジャンル別（動物、果物、野菜等各ジャンル10〜12枚のセット）になっていて、場面に応じて使いやすい。
- ・480円と比較的に安価であり、児童の個人持ち教材としても使うことができる。
- ・カードの絵の下には、単語の綴りが印刷されていて、文字と音声に自然と慣れさせることができる。
- ・絵がカラフルで児童が受け入れやすい。また、人物や内容が日本人を意識して描かれていて、違和感がない。▶オモモ
- ・カードの裏面には綴りの頭◀ウラ
- ・文字が大文字で印刷されていて、文字に慣れ親しむことができる。
- ・アクティビティプラン（活動例）が付いているので、すぐに使える。

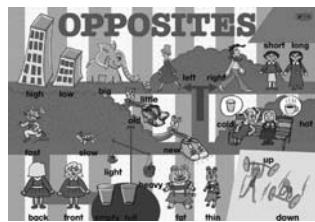


また、もうひとつの特長として、「カードdeえいご」にはB4版の教師用カードもあります。児童用と全く同じ内容になっているので、あわせて使うと大変便利です。教師用には、英単語や表現をリズムのある音楽（チャ

ンツ）に合わせて録音したCDが付いている。教師用も児童用もカードに番号が印刷されており、その番号順に録音されています。また、教師用にはポスターや、活動例が掲載されたアクティビティブックが付いています。



▲中央が教師用、右が児童用です。「OF」と並べると、これくらいの大きさです。



▲ポスター



▲「カードdeえいご」(教師用)



「カードdeえいご」の実践例

ここでは、「カードdeえいご」の実践例を紹介します。ポイントは、単発的に使用するのではなく授業や単元の構成を意識して活用することです。

授業や単元の構成は、大きく分けて5段階にすると無理なくテーマやトピックに関連した展開となります。

実践例 5年生

単元名 「ペットショップで欲しいペットを買いましょう」

児童たちにとって、ペットは身近で関心の高いジャンルです。実際にペットを飼っている児童も、必ず何人かいるはずで、

この単元では最終的に、自分の飼ってみたいペットを擬似ペットショップで伝えるというコミュニケーション活動に取り組みさせます。

①ウオームアップ(第1段階)

日本語とは違う外国語を扱うので、これから英語活動を始めるための準備体的なことをします。

歌や簡単なゲームなどが適しています。

今回は、動物に関するスリーヒントクイズをします。

It has long ears.

It likes carrots.

It has red eyes.

What is it?

というようなヒントをジェスチャーや具体物

(赤色の色紙、にんじん)を出しながらクイズ形式で出題します。児童が答えるときは、日本語でも英語でもいいことにします。児童の答えを聞いた後、「It is a rabbit.」と教師が正解を言って、「カードdeいいご」の教師用カードを児童に示します。この時、音声を先に聞かせてから、カードを提示するようにします。カードを先に出すと、音声に頼らなくなるからです。

②聞いて慣れる活動(第2段階)

この段階は、児童がまだ発音する段階ではありません。多様な方法で十分に聞く活動に取り組みたいところです。

まず、「カードdeいいご」の教師用動物カードを黒板に貼り、CDで英語の発音を数回聞かせます。次に、児童用の動物カードを番号順に児童の机の上に並べます。CDをかけて、単語の音声がかえたら、児童たちは指でそのカードをタッチしていきます。順番に聞こえてくるので、誰でも簡単にできます。これを2、3回行います。

今度は、カードをかき混ぜ、ランダムに机の上に置きます。再びCDをかけて、聞こえてきたカードにタッチしていきます。順番にタッチすることができないので難易度が高くなり、高学年の児童でも楽しく取り組むことができます。



▲聞こえたカードをタッチ！

また、別の聞かせる活動として、教師用の動物カードを教室の壁や窓に貼ります。教師は目を閉じて黒板の方を向きます。教師が10からカウントダウンする間に、児童たちは自分の決めた動物カードの前に立ちます。教師は「Sop!」と言って動物カードにあるひとつの単語を目を閉じたまま言います。教師が言った単語の前に立っている児童たちはアウトで、自分の席にもどります。これを繰り返して行い、勝ち残った児童が優勝です。

また聞かせる活動として、児童用カードでカルタを行うことも有効です。お手つきのルールをつくったり、机上にないカードを言ったりして変化をもたせるとよいでしょう。

単語の次は、表現を聞く活動です。ここでは、教師によるデモンストレーションや紙芝居が考えられます。ペットショップでの表現を黒板に書きます。

〈表現例〉

"May I help you?"
"Yes, please."
"What do you want?"
"I want a dog."
"How about this one?"
"How cute!"
"It's fifty thousand yen."
"I will take it."
"Thank you very much."

5年生であれば、英文を黒板に書き、どのような意味を持っているのか文ごとに教師が伝えます。高学年になると、意味を日本語で理解して活動しようとするのが発達段階です。担任だけであれば、パントマイム風に店員と客の役を演じます。ALTがいれば、ふたりに役を決めて演じます。

③言って慣れる活動(第3段階)

動物の単語がどのような発音をするのか、ペットショップでの会話はどんな表現を使うのか、十分に馴染んだら、今度は発音して慣れる活動です。この活動には、チャンツが有効です。チャンツとは、英単語や表現を一定のリズムとイントネーションに乗せて詠唱し、繰り返して言う指導方法です。

教師用のカードを黒板に貼り、チャンツで英単語や表現を言う活動を行います。ここでは、次のコミュニケーション活動につながるように、動物の英単語のチャンツを行ってか

ら表現のチャンツを行います。

例えば、「カードdeえいご」の動物ジャンルの順番で、bear, bird, cat, cow, deer, dog...などの英単語をリズムに合わせてチャンツをします。このとき、チャンツをする順番にカードを黒板に貼っておきます。

英単語編が済んだら、表現を導入します。

②で紹介した表現の日本語の意味を、もう一度確認してからチャンツを行います。

チャンツは、教師自身がタンバリンやメトロノームで簡単にリズムをとってすることができます。また、電子キーボードに内蔵されているリズムを使うこともできます。チャンツをする時、テンポを徐々に速めたり、声の高さを変えたりすると、児童たちは楽しみながら遊び感覚で英単語や表現を使うことに慣れ親しむことができます。

④コミュニケーション活動(第4段階)

いよいよ実際に自分の伝えたいことを英語で伝える段階です。ペットショップ用の机をいくつか用意し、その上に児童用の動物ジャンルカードを置きます。カードを商品(動物)に見立てます。できればお金の模型も準備するとよいでしょう。児童たちは、店員と客に分かれて英語を実際に使っていきます。途中で店員と客の役割を交代することも考えられます。

最後に、何人か代表で実演して、他の児童たちに見せることもできます。

このコミュニケーション活動を単元構成の

中にしっかりと位置づける必要があります。言語スキルを習得することではなく、英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験し、コミュニケーション能力の素地を養うためには大切にしたいところです。

⑤振り返り(第5段階)

授業や単元の振り返りを行います。自己評価や他者の良いところ、授業の反省などを記述させます。

児童の実態に合わせて、①から⑤を単元として上手に構成していくことが、担任の力の見せどころです。①と⑤は、毎時間必要なものですが、単元の最初の頃は、②を多く配置し、徐々に③・④を増やしていけば理想的でしょう。

「英語って楽しいな」

遊ぶことを通して英語に触れていくことで、子どもたちは、「英語って楽しいな」という意識をもつことができます。「カードdeえいご」は、まさしく英語で楽しく遊ぶための優れた教材であり、忙しい担任を大いに助けてくれる教材でもあります。さらに、遊ぶことからコミュニケーション活動へと発展させることも可能にする教材です。

教師にとっても、「英語って楽しいな」と思えるようになれば、あなたはすでに立派な英語活動の指導者です。

カードdeえいご

新学社の小学校英語教材

監修 = 渡邊寛治
著 = 小学校英語カリキュラム開発研究会

児童用 A・Bセット 定価各 **480円**
各108枚 アクティビティプラン付き



子どもが変わる!

小学校英語活動

子どもが変わる! 新学社 小学校英語活動

評価のポイントがわかる!
活動のアイデアが満載!
ピクチャーカード、ワークシート付き!

小学校英語の指導案・活動のアイデア集
低・中・高 定価各 **9,500円**
CD-ROM 2枚付き

教師用 ポスター、CD、アクティビティブック付き
定価 **18,900円**

小学校英語教材についてのお問い合わせ・ご注文は右記へどうぞ

新学社

〒607-8501 京都市山科区東野中井ノ上町11-39
TEL 075-501-0510 FAX 075-501-5321